

■淀殿(茶々・淀君)よどどの京都宣教許可1569＝	転変経て豊臣秀吉の妻となり、秀吉死去後、大坂城で再起を窺うも、家康に敗れ子秀頼と自刃。
石山合戦始・1570＝1歳	誕生年には諸説あるが、緻密な考証をした井上安代説に従う。_近江浅井郡小谷城の城主浅井長政の長女に生まれる。母は前年に政略結婚したばかりの織田信長の妹お市の方(小谷方)。
室町幕府滅亡1573＝4歳	妹初が誕生。信長の越前侵入が始まると、父は朝倉氏と強調するようになって、同盟関係が破綻するも、織田と浅井のした後も、母お市の方と小谷城に留まっていたが、次の妹江が誕生。_信長に包囲された小谷城から母に伴われて妹2人と脱出し、信長の尾張清須城に入り、
上杉謙信没・1578＝9歳：	のち、揃って信長の弟信包に預けられる。
本能寺の変・1582＝13歳	*本能寺の変後、豊臣秀吉の発言力が増すなか、信長の三男信孝の説得に応じて対抗する柴田勝家に再嫁した母に従い、越前北ノ庄(福井)城に入るが、
賤ヶ岳の戦・1583＝14歳	_秀吉に攻められて北ノ庄は落城、勝家に殉じる母によって、その直前に、妹2人とともに脱出、
長久手の戦・1584＝15歳	大坂城本丸御殿が完成、妹初と大坂入りした秀吉のもとに引取られたらしく、以後、その庇護を受ける。妹江は尾張国知多の大野城主佐治一成と縁組するが、まもなく一成は領地没収となり、秀吉のもとへ。
パレン追放令1587＝18歳	妹初が京極高次に嫁ぐ。姑は京極マリア。この頃、*秀吉の寵を受けて、側室となり、
・・・・1589＝20歳	_山城淀城に移り、“淀の女房”と呼ばれ、秀吉の子鶴松を生むが、
秀吉全国統一1590＝21歳	秀吉全国統一1590＝21歳：
土農工商公布1591＝22歳	妹江が秀吉の養子小吉秀勝に再嫁し、_鶴松は夭折。
文禄の役・1592＝23歳	娘完子を出産するも、夫秀勝は朝鮮出征中に病死、
方広寺大仏殿1593＝24歳	_大坂城二の丸で拾(秀頼)を生む。
ルッ島通交・1594＝25歳	伏見城西の丸に移る。
関白秀次事件1595＝26歳	徳川家康の三男秀忠に嫁ぐことになった妹江の前夫の子完子を養女に引取って育てる。
26聖人殉教・1596＝27歳	慶長の役・1597＝28歳
慶長の役・1597＝28歳	妹江が秀忠の子千姫を出産。近年、秀吉においては一夫多妻説が浮上していて、
豊臣秀吉没・1598＝29歳	醍醐寺の花見の記録でも、政所(おね)、茶々から加賀さま(利家の娘)の席順で5人並べられ、いずれも正室と見なしており、実際、茶々は自分の方がおねより上位と主張もしている。_秀吉が死去、
前田利家没・1599＝30歳	*秀頼とともに大坂城西の丸に入り、以後は“お袋さま”と呼ばれる。
関ヶ原の戦・1600＝31歳	徳川家康が征夷大將軍になったことに衝撃。秀吉の遺命により、千姫を秀頼に嫁がせる計画も進む。
阿国歌舞伎始1603＝34歳	妹江が待望の男子(のちの家光)を出産。養女完子が九条家に興入れ。
糸割符法始・1604＝35歳	徳川家康隠居1605＝36歳：
徳川家康隠居1605＝36歳	家康駿府退隠1607＝38歳
家康駿府退隠1607＝38歳	おねを介して、家康から、秀頼に新將軍秀忠就任に祝いの挨拶をするよう言われると、上洛するくらいなら、秀頼を殺して自分も自害すると抵抗し、家康は譲歩する。
山田長政渡航1611＝42歳	文武両面にわたって優れた人物に成長した秀頼が二条城を訪れ、初めて家康と会見。おそらく、家康は、その器量を見て恐れをなし、豊臣家をつぶす決意をしたと思われ、
大坂冬の陣・1614＝45歳	_秀吉が建造し大地震で壊れたままになっていた大仏殿を再建したところで、家康側から梵鐘に入れた銘板の文を理由に供養を延期するようにいわれて、秀頼が抗戦の決意を固め、大坂の陣となる。城内にいた妹初を介して、家康から講和が持ち込まれ、一旦決裂するも和議が成立するが、
大坂夏の陣・1615＝46歳	*再び不穏ありとされ攻撃され、妹初の最後の説得も空しく、大坂城は落城、秀頼とともに自刃した。翌年、茶々が父浅井長政と母お市の方の追善のために建立した養順院で、將軍御台所たる江が施主となって、仏事が営まれた。